

平成30年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

[評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)]

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
教育活動全般	1	分掌活動	分掌組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な分掌運営に協力できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒課:業務の年間スケジュールを把握し、早めに準備にかかった。仕事内容を明確にすることで、円滑に運営できた。今年度、特に重点をおいたのは、生徒会活動を含めた様々な活動を通して、生徒自ら考え、自主的に生活できるように指導した。生活委員会の指導では、スマホ(インターネット)使用モラルの向上のために、ポスター制作・標語募集などを実施した結果、生徒が積極的に生活するようになってきている。今後は、本校の実態に基づいたルールの策定が必要であるとする。 ・教務課:役割の明確化と分掌の情報共有ができた。課の業務は学校全体に関わってくるため、それぞれの担当が仕事に責任を持ち、連携を取りながら仕事を進めることができていた。時間割など特殊な業務があると、それができる個人に負担をしいてしまうため、可能な限り負担軽減ができる仕組みも考えていきたい。 ・進路課:運営については、概ね計画通り実施できた。それぞれが進路課が果たす役割を意識して、与えられた任務だけではなく、できる限り気が付いたことは積極的に取り組んだ。高大連携の一環として、大学生が高校生に英検の受験サポートをする「お助け隊」を実施した。今年度初めての試みであったが、英語科と協力して企画、運営を行った。 	<p>質問者1-1:学校評価について、どのように公開しているのか。 学校:ホームページで公開しています。 また、県私学振興課や常葉大学法人本部にも学校評価を提出しています。 質問者1-2:他の学校も学校評価を行っているか。また、常葉はA評価がほとんどだが。 学校:公立、私立学校ともに実施しています。評価については、それぞれの学校で評価基準が違います。本校の評価基準はA:充分達成できた。(80%程度)、B:ある程度達成できた。(60%程度)、C:あまり達成できなかった。(40%程度)、D:達成できなかった。(20%以下)となっています。本校は教員の個人評価をもとに評価を算出し、その結果、教育活動の8割以上達成できていると判断されています。 質問者2-1:授業を教えること以外に、多くの取り組みを実践していて、先生方の負担が大きいと感じる。特に「3. コース・系列運営」について、4つのグループに分け、会議を開き、立案、運営は授業を持ちながら行うには大変だと思われる。 学校:ご指摘の通り、授業を持ちながら実践していくことは大変ですが、今年度の取り組み事例にあるように、それぞれのコース・系列で成果が見られ、A評価につながっています。事前準備・情報共有・教員間の連携が円滑に行われた結果だと分析しています。</p>
	2	学年運営	学年組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な学年運営に協力できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学:情報共有が常にできているので、生徒全体の状況を把握しやすい環境ができています。そのため、学年を越えて生徒に指導や声かけができた。また、中学は行事が多いため、教師間の連携をしっかりと取り、同一歩調で円滑な企画や運営ができた。 ・高1:常に先を考えながら、円滑な学年運営を心がけた。また、この学年はコミュニケーションが良くとれている。それぞれの教師が、役割以外でも気づいたことには意見を出し、行事等相談しながら最善を尽くして取り組むことができた。 ・高2:担任同士の連携を深め、クラスを越えて指導することができた。特に生活指導においては、そのときの現状に応じて重要となるポイントを事前に共有し、担当者によるクラス間の差が出ないように指導を徹底することができた。また、2年生の大きな行事として、修学旅行があるが、事前に問題となり得ることについて解決策を用意し、円滑に行事を進めることができた。 ・高3:学年部の目標や指導方針を意識して協力体制を作ることができた。特に、進路指導、学年行事において情報共有をし、共通理解のもとに助け合い、仕事を確認しながら円滑に行った。 	
	3	コース・系列運営	コース・系列の組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な運営に協力できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・GSコース:コースとして、学年の縦のつながりを大切にしたい。その結果、GSキャンパ・スピーチコンテスト・イギリス研修等、コース行事の円滑な運営ができた。特に行事運営では、スタッフが少ない中、お互いを補いながら業務をすることができた。 ・看護・医療健康系列:連携をしている大学・病院などとコミュニケーションを取りながら、充実した連携講座ができた。また、普通救命講習や看護医療模試など本校独自の行事も情報共有・共同を大切に、仕事を正確に行った。 ・保育系列:エプロンシアター発表会や幼稚園ボランティア、ダンス発表会など系列独自の行事を実施するなど、系列の特色を出すように努めた。こうした行事の事前準備を計画的に行い、教員間の連携で円滑に進めることができた。 ・総合進学系列:様々な進路の生徒が集まっているため、指導に難しいところがあるが、ライフキャリアデザイン講座などを実施し、生徒が進路をしっかりと考えることができるように指導した。各講座の講師や関連団体との連絡を密にし、充実した内容となるように努めた。 	
	4	教科活動	教科の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な教科の運営に協力できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の指導目標や方針などを意識し、教科指導や教科内の行事を実施することができた。進度の進捗状況などの情報を共有し、また、共通教材を使用することで、クラスで指導に差が出ないように配慮した。 ・理科室などの特別教室の備品(教具)の整理や清掃・資料などの管理を協力して行い、学習環境を整備するとともに、生徒が安全に学習できるようにした。 ・教科会議で情報の共有を図り、研修会など積極的に参加することにより、教科のスキルアップにつなげることができた。 ・各種検定や入試問題作成、教科の行事など準備を入念に行い、仕事が円滑に行われるように努めた。 ・数学では、常葉大学教職大学院の教授と連携し、学期ごとに研究授業を行った。生徒、教員ともに良い刺激となり、教科のモチベーションを向上させることができた。 	

学習指導・教務関係	1	教科指導	生徒の学力の定着、向上や学習意欲を引き出し、生徒の満足度の高い授業実践ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、本、DVDを利用し、一つのことに対して様々なアプローチを試みた。 ・クラスの特性に合わせた授業を心がけ、授業アンケートでは概ね良好な評価を得た。 ・実技において制作開始時に「課題のねらい」「採点ポイント」を明確に示し、モチベーションを維持できるよう工夫した。 ・ニュースで取り上げられていることなどにも注目することで、生徒の興味関心につながるよう教材観を深めることに努めた。 ・時間の初めに必ず授業のポイントを明示し、身に着けてほしいことや理解してほしいことを伝えた。 ・毎時間最後の5分に感想を書かせ質問があったら次の授業で生徒にフィードバックして復習している。 ・実習と座学のバランスに注意し、生徒の取組む姿勢を大切にしたり。 ・小テストや確認テストを実施したり、課題を与えたりした。 ・ノート回収を頻繁に行い、必ずコメントを書いて返却した。 ・机間巡視を増やし、個々の対応を増やした。 ・先生方と情報・指導事例の共有など連携をとりながらおこなった。 ・生徒にとって将来必要な知識は何かを考え、自分からもっと学びたいくなるような授業を行うよう心がけました。 	<p>質問者1-1:学校評価とは、学校が自身の学校を評価しているのか。 学校:自己評価となります。</p> <p>質問者1-2:授業アンケートの結果が教員に伝わっていないように感じる。確かに、結果を踏まえて参考にしてくれる教員もいるが、そうでない教員もいるように感じる。 学校:授業アンケートは教科ごとに実施しています。教科によって、また結果を受けとめる教員によって多少の差が生じることがあるかもしれません。</p> <p>質問者1-3:折角、授業アンケートを実施しているのだから、結果を反映していただきたい。生徒が良くしたいと考えて意見を出しているのだから、それに答えていただきたい。意見に対して何も回答がなく、変わらないのであればアンケートを書く意味がなくなってしまう。 学校:確かに何らかの形で生徒にフィードバックしていく必要があるため、今後検討していきます。</p>
	2	授業規律	私語や居眠り等を放置せず、落ち着いた雰囲気を作って授業が実施できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・思い切り発言させるところと、とにかく黙って聴け！という区別をつけ、彼女たちの積極性がなくならぬようコントロールした。 ・私語や居眠りをさせないために、緩急のある授業展開を試みた。 ・私語や居眠りがある都度、生徒を注意して、他の生徒にとっても良い雰囲気作りを努めた。 ・自分以外の作品を見て意見交換する時間帯と、制作に集中する時間とを区別し、めりはりのある授業を目指した。 ・授業評価カードを活用し、一時間の中で授業の振り返りができるようにした。 ・授業がパターン化しないように意識し、机間巡視で緊張感や教師に質問しやすい空気を作った。 ・授業ではグループワークで意見交換・発表をして生徒同士の活動を増やすことを心掛けた。 ・落ち着いて授業を行うために、授業の準備をしっかりさせ、身の回りを整えさせるなど授業に入る前に環境作りを徹底することを心掛けた。 ・授業規律は徹底して行ってきた。 ・授業進度・テンポの見直し、教材の工夫をした。 	<p>質問者2-1:ただ、気をつけなければならないのは、生徒は生徒の考え方で書いている。生徒の考えるものさしと教員が考えるものさしが違うかもしれない。 質問者1-4:それは理解している。生徒が間違っているのであれば、それを正していただきたい。一方通行ではなく、意見交換ができる場をつくっていただきたい。 学校:いただいたご意見を参考に、授業アンケートの在り方について今後検討させていただきます。</p>
	3	欠席・遅刻抑止	遅刻・欠席が多い生徒の状況把握や改善への働きかけができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、出勤後すぐに教室に行き、窓を開けて教室の換気をした。 ・遅刻・欠席の多い生徒の体調など状況の把握を含め、保護者と連携をし、連絡を密に取り合って面談など対策をすることができた。 ・放課後での個人相談や職員室や廊下などでできるだけ声かけなど、働きかけを行った。 ・遅刻・欠席が多い者は家庭への報告や生徒本人との会話を増やし、生徒の心にも配慮をしながら指導をした。 ・保健室やカウンセラーに間に入ってもらい学校へなるべく来られるよう意見交換をした。 ・新入生は人間関係に左右されることが多かったが、話を聞くチャンスを増やして交流を大切にしたり。 ・授業のなかで健康管理、遅刻、欠席の内容について声掛けをした ・朝打ち合わせ後、可能な限り正門で登校状況を確認した。 	<p>質問者2-2:「1.教科指導」の「時間の初めに必ず授業のポイントを明示し、身に着けてほしいことや理解してほしいことを伝えた」とあるが、これはとても重要なことで、実践していることは素晴らしい。 学校:それは非常に大切なことであると思います。また、ある授業では、毎時間最後の5分に「授業評価カード」を書かせ、次の授業で生徒にフィードバックして復習することを実践しています。</p>
	4	読書指導	朝読書が落ち着いてできるよう、クラス内の雰囲気作り(担任)、遅刻者指導(副担)を徹底できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムが鳴る前に自分が読書を始め、読書の雰囲気づくりをした。 ・機会をみて自分が読んだ本を紹介するなどして、生徒の読書意欲を引き出すようにした。 ・おすすめの作家や書籍について折に触れ話題にした。 ・読書の楽しさや重要性をできる限り伝えた。 ・教室に様々なジャンルの文庫本を置き、多くの作品に触れられるような環境を作った。 ・授業で扱った作品や古典も取り入れ、深い学びができるように工夫した。 ・月に1度おすすめの本を紹介し、なるべく手に取ってもらえるように設置を考えた。 ・環境整備と声掛けをしながら10分間だけは読書に集中させた。次第に10分では少ないと感じる生徒や図書室を利用する生徒が増えた。 ・朝読書は心を落ち着かせて1日をスタートするための時間だという事を徹底して生徒に話をしました。 	<p>質問者3-1:「1.教科指導」の「ニュースで取り上げられていることなどにも注目することで、生徒の興味関心につながるよう教材観を深めることに努めた。」の教材観を深めるとはどういう意味か。 学校:社会科の授業の取り組みで、今、社会で起きていることに注目し、どのように感じるかの学びのことで、アクティブラーニングにも通じるものです。 質問者1-5:中学校でも実践している。子どもがそのような学習をしていたのを覚えている。</p>

生徒指導・総務関係	1	生活指導	服装・頭髪等の違反者の生活指導や、言葉遣い、挨拶などマナー教育が徹底できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の風紀検査に加え、継続指導を実施。点検項目が改善されるまで指導を行っている。検査のときだけ合格すればいいのではなく、日頃の指導を大切にし、「生徒課の教員だけでなく、教員全員が生徒指導に関わる」という考えを持って指導にあっている。 ・朝のSHRで生徒の様子をしっかり観察し、小さな変化を見逃さないようにした。 ・挨拶や言葉遣いは、まだまだである。言っただけ改善されるものではないが、教員の方から挨拶をして、返ってくるというのが現状である。言葉遣いについては、その場で状況をわきまえた言葉遣いを教えている。とにかく、根気強く指導することが必要である。 ・今後は「〇〇指導週間」のような期間を設定して、若い教員が自信を持って指導できる環境を作っていくことが必要であると考えている。 ・朝の打合せ後、可能な限り正門で登校時の指導を行った。 ・校外巡視の実施……登下校の様子や店内でのマナー、校則違反がないかなどをチェック 年間14回:定期テスト最終日・面接週間期間・終業式など 場所:セノバ・静岡駅・カラオケボックス・両替町・呉服町など 	<p>質問者1-1: 常葉中高の生徒は真面目だと思う。制服の着方が他校に比べて着崩していない。他校の生徒が化粧をして、短いスカートの制服姿しているのを目にするが、常葉の生徒は真面目だと思う。</p> <p>質問者2-1: 挨拶運動が盛んに行われている。出勤時に学校の前を通るが、ごみもなく気持ちがよい。</p> <p>挨拶やマナーというのは、本来は学校よりも家庭で教えるべきことである。学校にゆだねられることが多くあるが、家庭と学校とで連携していかなければならないのではないかと学校で起きたことについて、生徒は自分に都合のいいように親に言う場合がある。校則等についても保護者に知ってもらい、共通認識を持ってもらう必要があるのではないかと。</p> <p>学校: 保護者には、入学説明会の際に校則等について説明を行っています。夏季長期休暇に入る前には、休暇中の過ごし方について、保護者宛に文書を配布しています。</p> <p>質問者2-2: 風紀検査や普段の生徒指導について、教員の共通認識のもと実践していかなければならない。あの先生はよくて、あの先生は厳しいとなると不公平感が生まれるし、指導が徹底できなくなる。</p> <p>学校: 生徒課の教員だけでなく全教員が共通認識を持ち、同一基準で指導ができるよう指導マニュアルを配布し、周知徹底を図るようにしています。</p> <p>質問者2-3: 挨拶について、教員が率先して挨拶をしなければ挨拶しないという状況が増えている。コミュニケーションが苦手な子どもが増えているのかもしれない。学校だけでなく家庭でも「おはよう」「おやすみなさい」などの挨拶をすることが減ってきているのではないかと。</p> <p>学校: 実際に、小学校によっては、知らない人には声を掛けないという指導が行われている学校があると聞いたことがあります。こうした子ども達は混乱してしまうかもしれません。TPOで使い分けることを教えていく必要があると考えています。</p> <p>質問者2-4: 校内では人を見たら挨拶するという習慣づけをしても良いかもしれない。</p> <p>学校: もちろんそれは大事だと思います。来校された方には挨拶することが当たり前だということを身につけさせていきます。</p>
	2	学校行事	生徒を主体的に動かし、各行事のリーダーを育成することができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭、体育祭、合唱コンクールなどの大きな行事では、代表委員や常任委員に役割を与え、生徒が責任を持って仕事をするように指導している。 ・各行事において、生徒の力量を考えてチャンスを与え、助言やフォローをしながら、リーダーづくりをしている。やる気のある生徒を優先しながらも、各行事でメインとなる生徒を決めている。 ・生徒が発言、行動しやすい環境作りを考えた。 ・助言は必要最小限に抑え、生徒が自ら考え行動できるように努めた。 	
	3	教室・校内美化	清掃指導を徹底し、教室や校内の美化に努めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレをはじめ、きれいな状態を保っている。清掃分担場所へ行き、生徒と一緒に清掃をして指導を行っている。 ・分担場所を細かく決めたり、清掃のルールを作り、終了後に教員が確認するということを習慣化した。 ・私物をきちんと管理させ、ゴミを出さない指導をした。 ・週末は机の中をカラにして帰宅する習慣をつけさせた。 ・校内に落ちているゴミは必ず拾って捨てている。 ・破損や故障が起きた場合、教育活動に支障が出ないよう迅速な対応をしている。 	
	4	貴重品管理	朝のSHR時に貴重品提出を徹底できたか。記録用紙に未提出者を記録したか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のSHRで貴重品(財布・スマホ・集金など)を回収し、職員室で管理、帰りのSHRで返却する。これを全クラス確実に行うことで、盗難や紛失というトラブルを防いでいる。 	
	5	防災・防犯	防災や防犯の意識を向上させることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1度の避難訓練の実施と、地域防災訓練への積極的な参加を呼び掛けている。雨天の場合は津波対策として、学年ごとに校舎内高層階の指定された場所に避難するという訓練を行う予定である。 ・防災に関する話し合いをグループワークに取り入れ、防災意識の向上を図った。 ・貴重品だけでなく、「自己管理」を徹底させている。「貴重品は自分で持つ、カバンを教室に放置しない、放課後こそ油断しない」ということを呼び掛けている。 ・「もしものとき」の行動(痴漢や不審者対応)について具体例を挙げ、生徒の意識を高めるようにした。「自分の命は自分で守る」ということを徹底したい。 	
	6	部活・生徒会	部活や生徒会を活発にし、生徒の育成ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活の活動目標や年間予定を明確にして、計画的に作品制作をさせた。 ・挨拶や風紀面を重んじた。外部での発表の機会が多くあり、学校のよいアピールができた。 ・集団での協調性や責任感、規範意識を育てることを考えた。 ・部活動を通して人として大切なこと、周りから愛される人間になるように指導をしている。 ・部員数が少なく他校との合同練習であるが、できるだけ参加し技術向上に努めた。 ・今年は夏休みにインターハイがあり、係の仕事に精力的にこなした。 ・生徒会活動……文化祭の企画・挨拶運動・募金活動・静岡ホーム訪問・地域清掃活動・駿府城公園の花の植え替えなど。 ・生徒会役員(会長・副会長・書記)に立候補する生徒が少なく、メンバーが毎回入れ替わってしまうと、仕事の引き継ぎが不十分であったり、経験が生かされなくなってしまう。中心になる生徒を確保し、活動が停滞しないようにしたい。生徒会事務局員が約15名いるので、これらの生徒の協力も得て活動していく必要がある。 ・生徒会役員のアイディアや一般生徒の意見を集め、企画の段階でできることとできないことを認識させ、自分たちの手で運営できるというところまで持っていきたい。 	

進路指導	1	進路意識	進路行事や進路情報の提供等を通して、生徒の進路意識を高めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 常葉大学の附属高校として、進路連携を意識したガイダンスや保護者会を開催した。 学年に応じた進路ガイダンス等、継続的な進路指導ができた。 1年次から集会や学年通信、学年の宿題などを通して準備を進めてきたが、劇的な成果・変化は見られなかった点は今後の改善点である。 毎日のSHRを大切に、今頑張ること、みんなで前向きに取り組むことを意識して声掛けをしてきた。手帳を毎週回収して、モチベーションを維持できるよう励まし続けた。1年だが受験に向けて動き始めている生徒も増えた。 行事があったり進路雑誌が届いたときなどに、生徒が進路を意識するような話をするよう心がけた。 学年集会等で全体に対しても、進路意識を高めるような働きかけができた。授業でも折に触れ、話げできた。 	<p>質問者1-1:「5.資格取得」について、今後は大学受験に備えて、英検からGTECに切り替えていくのか。</p> <p>学校:GTECはスコア型のため目標を定めにくいという点があります。今回、高校1年生を対象に英語検定を一齐に実施しましたが、初めて検定に挑戦する生徒もいました。今回の検定結果から、まず英検3級取得を目指し、学力をつけることを実践していきます。</p> <p>質問者2-1:例えば、英検の準2級を取得したら、GTECに移行するなど基準を設けてはどうか。</p> <p>学校:今回の英検結果から、まずは基礎学力をつけることが先決であると考えます。GSコースでは、GTECを実施しています。また、来年度新設される特進コースでは、様々な検定の受験に対応できるよう調整していきます。</p> <p>質問者4-1:英検の他に検定試験を実施しているか。</p> <p>学校:漢字検定、数学検定、ワープロ検定等を実施しています。</p> <p>質問者3-1:常葉大学に進学する場合、入りにくい学部があるがその場合はどのように対応していくか。</p> <p>学校:確かに、教育学部、看護学部は人気があり難しい部分があります。全入を目標として、個人の希望および学力にあつた学部学科が選択できるよう、生徒、保護者と連絡・連携をとりながら今後も進路指導を行います。</p> <p>質問者3-2:本校には職業図鑑はあるか。自分の知識の中だけの狭い選択肢の中から進路を選んでいるか。いろいろな世界を見せてあげる必要がある。</p> <p>学校:関連の冊子一式が各クラス1セットずつ設置してあります。また、今年度1年生より、適性検査を実施しています。この結果について、生徒が興味を持ち、進路選択をするうえで良い影響を与えられるものと考えます。</p> <p>質問者1-2:進路については、親が子供と一緒に考えて考えるべきである。子供がいくら望んでも親が学費を支払えなければ進学することができない。今日は、親子でオープンキャンパスに行く時代である。もっと親が子供と向き合つて進路を決定すべきである。</p> <p>質問者3-4:専門学校に行く生徒はどのくらいいるのか。</p> <p>学校:今年度は約24%です。その中でも本校は看護学校が多いです。看護の場合、専門学校と大学とでは掛かる費用が違うため、看護学校を希望する生徒が多い傾向があります。</p> <p>質問者3-5:専門学校の方が高いか。</p> <p>学校:看護学校の方が学費はかなり安いです。また、その他の専門学校の進学先については、医療、美容、CA、プライダル等があります。</p> <p>質問者2-2:専門学校に進学する者は、目的意識が明確である。</p> <p>質問者2-3:例えば、エアライン関係であれば、飛行機に乗った際の接客が素晴らしいのでCAを選んだとか、プライダル関連であれば、出席した結婚式場の対応が素晴らしくプライダルプランナーになりたいなど。実体験から得るものが大きい。</p> <p>質問者1-3:進路選択においても、多くの体験のチャンスを与えることが重要である。体験してみても初めて自分の適性を認識できる。</p> <p>学校:いただいたご意見を参考に、来年度に向けて更なる進路指導の充実に取り組んでいきます。また、中学校の取り組みとして、来年度より伝統文化からキャリア教育に移行します。今まで日本の伝統文化を学び女性としてのたしなみを身につける講座を行ってきましたが、来年度よりキャリア教育にも力を入れていきます。生徒が社会の中での役割や生き方を展望し実現できるよう、職業体験の充実にも取り組んでいきます。</p>
	2	学力対策	授業や補習、朝学習等を通して、生徒の進路達成のための学力向上ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 試験で点数不足の生徒や、授業の質問に來た生徒に放課後や昼休みに補習を実施した。 補講の計画立案で一部遅れた部分がありスムーズな運営に支障をきたした。学力養成に関しては2年次の補講を充実させたい。 何とか目標を達成してほしいので、追加のプリント(応用問題や基礎の基礎問題など個々に合わせて)を作成したり、手帳やノートを小まめにチェックして進捗状況を把握するよう努めた。苦手でも面白く感じるよう奮闘した。 問題解決型課題の授業を、学期に1・2回組み入れ。高3の現代社会選択者2名の勉強会(放課後)、小論文等の個別受験指導を実施した。 授業の進度に合わせた復習課題や応用力を養うための週末課題等を計画的に与え、学力向上を図った。 学年独自の取り組みとして、中学の学習内容の振り返り講座を企画実施できた。 	
	3	学力分析	定期試験や、模試等の結果分析をすることで、生徒にアドバイスをすることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者へ試験前の補習を実施し、しっかり点数が取れるようにすることで生徒の自信に繋がった。また、一緒に学習することで生徒に勉強方法も身に付けることができた。 結果や成績返却時には必ず2者面談を行い、これからどうしていくか話合つた。様々なサービスを利用してながら学力の推移を確かめ(模試は上がった)、クラス内の順位ではなく、全国での勝負を意識させるよう声掛けしてきた。 テスト後にテスト直しノートを提出させ、アドバイス等のコメントを書いて生徒に返却をした。 テスト直しノートに必ず復習させ、全体が苦手とする部分を授業で解説した。対外模試結果の見方をアドバイスした。 	
	4	キャリア教育	連携講座(高校)または土曜講座(中学)の目的を理解し、生徒の取り組む意欲を向上させることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 常葉大学との連携講座の運営自体は大きな問題はなかったが、内容的な部分で大学との目的意識の違いがみられる講座があり改善が必要な点もあった。 日常生活に生かせることも多く、連携講座のレポートは表裏ビッシリと書いていた。見学等を通して目標が明確になった生徒も多い。進路希望が決まっていない生徒や進路変更した生徒が多かったが、有意義な時間になるよう声掛けはした。 何がどう欠けていたのか状況のパターンを紹介・自己分析させた。 伝統文化では着付けを手伝い自ら学ぶ姿勢を示した。道徳では単元毎に発話やワークシートに工夫を凝らした。 伝統文化講座も福祉講座も目的が明確な分、生徒たちも理解し積極的に活動していた。ただ、教員数が少ないことと、学校説明会との重なりで、先生方の負担が大きかった。 	
	5	資格取得	各種検定の奨励や、資格取得のための事前指導ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 各種検定の積極的な受検を奨励した。 今年度初めて、英語検定の一斉受験を高校1年生で実施した。検定に初めて挑戦する生徒もいて、いい機会となった。 進路に関わる生活指導をしたり、また、資格取得の呼びかけを毎日行つた。教科担当の先生方のお力をお借りしながら、プリントを配布し、二次対策を行つた。 資格取得の価値を伝え、同時に、対策をきちんとする大切さを話した。 まずは資格取得の大切さについて理解させられるように話した。また漢検に向けて、授業や宿題(漢字ノート)を通して取り組ませた。残念ながら全員合格はできなかったのも、次回の漢検で全員合格をさせたい。 	
	6	保護者との連携	生徒や保護者との面接を通して個別に生徒の進路意識や学習意欲を向上させることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者との連絡・連携がスムーズに行えるよう定期的な連絡を欠かさないようにした。 学年部の先生も含めて保護者との連絡は密に行えた。きちんと話すことで立ち直つた生徒も少なからずおり、他校と比べても本校はこの点は、優れているのではないかと思う。 夏期の三者面談だけでなく、二者面談もできるだけ三者面談にし、生徒と保護者と意見に食い違いがでないよう確認しながら進路意識を高めさせるよう声掛けをした。 面談は納得するまで行つた。保護者と一緒に支えていくことを意識した。批判にならないよう言葉を選び、前向きに取り組めるよう励まし続けた。二者面談は結果返却などチャンスがあるときに積極的に行い、具体的な目標を立てた。 通常的面談はもとより必要に応じた生徒への声かけ、保護者への連絡等を通して全員納得のいく進路選択ができた。 面接では、生徒の良い点と改善点を具体的に話すように心がけた。相手の人柄を把握し、誤解が生じない表現を使うよう気をつけた。 共通理解・情報共有を大切にした。担任の先生方が保護者と連絡を密に取り合い、話し合つたことについて進路課長が報告を受けた。状況に応じて、保護者面談にも立ち会つた。 	